

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 医学教育部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 I 教育の実施体制

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## ○顕著な変化のあった観点名 基本的組織の編成

医学教育部博士課程では、これまでの4専攻（生体医科学専攻、病態制御学専攻、臨床医科学専攻、環境社会医学専攻）を、平成20年度から1専攻（医学専攻）に改組し、「国際水準の教育者・研究者」とともに「研究マインドを持った臨床医」を育成することとした。同時に大学院教育の完全実質化を目指して完全講座制の基本カリキュラム【特論93科目、演習82科目、実習54科目、特別実験82科目】を改定し、幅広い分野の教育【理論+セミナー20科目（科目制）、コースワーク2科目（科目制）、実践I、II各81科目（講座制）】を提供できるようにオムニバス形式の講義を取り入れた。さらに特別コースとして「エイズ制圧を目指した研究者養成コース（2種）」、「発生・再生医学研究者育成コース」、「がん博士育成プログラム」及び「代謝・循環情報医学エキスパート育成コース」（資料1）を新設した。さらに、本教育部では、発生医学研究所を中核としたグローバルCOEプログラム『細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット』（平成19年度発足）及びエイズ学研究センターを中核とした『エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点』（平成20年度発足）とも連携している。

上記のとおり、平成20年度の改組による「基本的組織の編成」の改善状況は極めて顕著である。

## 資料1 特別コースの特色

**エイズ制圧を目指した研究者養成コース（2種）**：「エイズ制圧のためのトランスレーショナル研究者育成コース」と「エイズ先端研究者育成コース」のコースを設置し、トランスレーショナル(TR)研究を推進する研究者・エイズ専門医の育成とHIV-1などの高病原性微生物を取扱う能力を備えた研究者を育成する。エイズに関する幅広い分野とTR研究に関する講義、日本最大のP3施設を利用した研究実習を行い、エイズ研究の基礎的知識と技術習得を初期に行う。さらに医師・大学院学生の履修コースでは、国立国際医療センターまたは本学附属病院で、エイズ治療に関する臨床教育と臨床治験を、医師でない学生の履修コースでは、病棟でのエイズ臨床体験を含む体系的な教育を実施する。

**発生・再生医学研究者育成コース**：発生・再生医学に関する学際的な諸領域を理解して、将来の発生・再生医療を実践する上で解決すべき諸問題に挑む先導的研究者と医師を育成することを目的として、発生・再生医学に関するコース独自の英語による授業科目を開講すると共に共通カリキュラムも取り入れ、きめ細かな教育と研究指導を関連分野の複数の教員が連携して行う。特に、グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」の中核的組織である「リエゾンラボ」の理念を活かし、異分野の学生・教員のグループワークによるProject-based Learningを演習科目に取り入れ、研究指導においても学生による定期的な研究中間報告に対して複数教員が助言を行うプログ्रेसレポートを実施するなど、学生と教員が一体となった教育研究コミュニケーションを展開する。

**がん博士育成プログラム**：九州地区における質の高いがん医療の均てん化を図ることを目的とし、熊本大学をはじめ九州の13大学、31がん拠点病院、緩和ケア専門病院によるネットワークを構築し、行政や医師会と連携して九州全域にがんの医療、情報収集、教育、研究を展開するため、各大学は独自の教育プログラムを実施し、優秀な教員の交流や科目の共有により、より効果的かつ効率的な教育を実施している。熊本大学では、理論科目、セミナーシリーズ、コースワーク、実践等からなる、薬物治療専門医や放射線治療専門医などを養成するがん博士育成プログラムを開講し、博士（医学）の資格とがん専門医としての資格の双方を取得できるプログラムを構築している。

**代謝・循環情報医学エキスパート育成コース**：本コースでは、代謝・循環器疾患の臨床病態を熟知した生命科学研究者、リサーチマインドを有する高度専門臨床医、優れた病態知識を有する疫学・保健医療専門家の育成を目的とし、本コース履修者は、以下の知識・技能を習得できる。1) メタボリック・プロテオミクスを用いたバイオインフォマティクスの理論と技術、2) 発生工学による病態モデル動物の作製と解析技術、3) メタボリックシンドロームに関連する種々の疾病の基盤病態、4) 循環器疾患の病態と診断・治療法、5) 代謝・循環情報医学の知識を基盤とする臨床各科横断的な診断・治療法、6) 生活習慣病の予防とヘルスプロモーションについての実践的知識・能力

出典：大学院医学教育部（博士課程）シラバス等を基に作成

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 医学教育部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例8 社会人及び女性にも開かれた大学院教育の整備

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

平成 20 年度採択の「医学・医療・生命科学を志す社会人の再チャレンジ支援」により、社会人学生への授業料免除制度を導入しており、その対象者は増加傾向にある（資料1）。また、社会人の就労や女性の出産・育児等にも配慮して、修業年限を一定の期間、計画的に延長して教育課程を履修できる長期履修制度（資料2）を導入した。さらに、女性や社会人の大学院入学者を定常的に確保するため、平成 20 年度から、大学院講義の 30%以上に eラーニングによる遠隔授業を取り入れるなどの取組を実施し、入学者は増加傾向にある（資料3、4）。

上記のとおり、平成 20 年度以降の取組による「社会人及び女性にも開かれた大学院教育の整備」に関する改善状況は極めて顕著である。

## 資料1 再チャレンジ支援プログラムにおける授業料免除者の推移

	平成 20 年度	平成 21 年度
半額免除者数 (人)	20 ( 9)	24 ( 6)
全学免除者数 (人)	10 ( 3)	17 ( 2)
合計 (人)	30 (12)	41 ( 8)
免除合計額 (千円)	5,358	7,769

出典：授業料免除者名簿を基に作成

## 資料2 長期履修制度

(長期にわたる教育課程の履修)

第4条の2 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、本教育部教授会（以下「教授会」という。）の議を経て、その計画的な履修を認めることがある。

出典：熊本大学大学院医学教育部規則から抜粋

## 資料3 講義における eラーニングの活用状況

科目名	授業数	eラーニングによる授業数 (%)
前期科目 (A1)	15	15 (100.0)
前期科目 (B1-B8)	120	44 ( 36.7)
大学院医学実験講座	21	18 ( 85.7)
後期科目 (C1-C10)	150	45 ( 30.0)
発生・再生医学研究者育成コース	60	10 ( 16.7)
平成 21 年度 医学・生命科学セミナー	11	8 ( 72.7)
平成 21 年度 名医に学ぶセミナー	11	4 ( 36.4)
計	388	144 ( 37.1)

出典：eラーニング実施状況を基に作成

## 資料4 年度別入学者数の推移

選抜分類等		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
修士課程入学者数		17 ( 6)	24 (15)	39 (14)
博士課程	一般入学者数	37 ( 4)	22 ( 6)	28 ( 8)
	修士課程よりの進学入学者数	4 ( 1)	5 ( 2)	6 ( 1)
	社会人入学者数	30 ( 8)	35 ( 8)	20 ( 3)
	外国人入学者数 (10月入学含む)	3 ( 1)	12 ( 5)	9 ( 4)
計		91 (20)	98 (36)	102 (30)

出典：入学者名簿を基に作成。( )内は女性の内数

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 国立大学法人熊本大学

学部・研究科等名 医学教育部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

## 事例9 大学院教育の国際化の推進

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

平成 20 年度から外国人留学生向けに秋季（10 月）入学を開始した。また、国費外国人留学生の博士課程への優先配置を行う特別プログラムに採択され、平成 20 年度及び平成 21 年度に、それぞれ 5 名の国費留学生が入学した。これにより、資料 1 に示すように外国人留学生の入学者数が著明に増加した。また、シラバスの英文化及び英語での講義（資料 2）を実現し、留学生の講義受講を可能にするとともに、グローバル COE や組織的な大学院教育改革支援プログラム等による英会話教育や英文論文の添削などの支援を受けて、日本人学生の英語能力の向上を図った。平成 20 年度から中国政府派遣留学生を受入れ、博士課程の国際化を推進した。さらに、平成 21 年度には、英語版ホームページ（<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/en/medgrad/index.html>）の大改定を実施し、外国人留学生や、その候補者らが大学院教育のシステムや特色を理解しやすいように改善した。また、平成 21 年度に、日本学術振興会の若手研究者海外派遣事業・組織的な若手研究者等海外派遣プログラムに「若手生命科学研究者による国際共同研究拠点形成を目指した海外派遣計画」が採択され、大学院学生の海外派遣を支援することにより、大学院教育の国際化を推進している。

上記のとおり、平成 20 年度以降の取組による「大学院教育の国際化の推進」に関する改善状況は極めて顕著である。

## 資料 1 外国人留学生の春季及び秋季入学者の数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
外国人留学生の 春季+秋季入学者数	春季のみ 3(1)	4(2)+8(3)=12(5)	3(2)+6(2)=9(4)

出典：入学名簿を基に作成。( ) 内は女性の内数

## 資料 2 英語で実施している開講科目一覧（平成 20 年度）

科目名	科目主任教員
生命倫理学特論	浅井 篤
医療情報・倫理学理論	宇宿功市郎
エイズ学特別演習Ⅱ～Ⅳ	岡田 誠治
発生・再生医学演習Ⅰ～Ⅲ	小川峰太郎
環境社会医学理論	加藤 貴彦
発生・再生医学特論Ⅱ	糸 昭苑
トランスレーショナル研究特論、トランスレーショナル研究特別演習、エイズ学特別演習Ⅰ、エイズ学演習Ⅰ～Ⅵ、エイズ学実習Ⅰ～Ⅲ、エイズ学研究、エイズ学特別研究	滝口 雅文
神経機能科学理論、発生・再生医学特論Ⅰ	田中 英明
神経情報科学理論	玉巻 伸章
細胞機能制御学理論	中西 宏之
発生・再生医学実習	永渕 昭良
発生再生医学理論	西中村隆一
造血免疫制御学理論、移植免疫学特論	西村 泰治
感染病態制御学理論、エイズ学特論Ⅱ	松下 修三
生体分子情報学理論	光山 勝慶

出典：大学院医学教育部・博士課程シラバスを基に作成